

# 推計手法の第一段階の改善について

## I. 各分野共通事項の改善

### 1. 生成交通量推計手法の改善

#### ①将来フレーム・入力値の統一

人口	・各分野で将来人口推計の基準年度が異なっていたものを統一。
経済成長	・以下のとおりの経済成長を設定した上で予測値を算出するよう、各分野で統一。 GDP : 最新の実質GDPの政府見通しに、 <u>直近10年間の実質GDPの平均変化量を加算して予測</u> 平成42年(2030年)以降は一定値に設定

#### ②生成交通量推計モデルの改善

国内旅客	・人口、GDPを説明変数とした生成交通量推計モデルを構築し、各分野で統一的に使用。 ・アクセシビリティ指標(ACC)については、生成交通量推計の段階では説明変数に使用しない。
国内貨物	・推計時の貨物の品目分けを統一（10品目） ・国内生産額・輸入額については、GDPを説明変数とした推計モデルで算出。 ・輸送量については国内生産額・輸入額を説明変数とした推計モデルで算出。

### 2. 需要推計に係る条件設定等の統一

#### ①推計年度の統一

H32年度(2020年度)及びH42年度(2030年度)を対象に全分野で推計を実施。

#### ②推計年度における交通インフラ及び交通サービス指標の設定方法の統一

- (1)ネットワークの設定については、現況に加え、事業化済みの箇所を考慮。
- (2)所要時間・運行頻度については、現況を基本とし、将来の変更が明確に予定されているものはこれを考慮する。
- (3)費用については、割引を考慮した現在の料金水準を基本とし、将来の変更が明確に予定されているものはこれを考慮する。
- (4)有料道路事業の認可を受けた事業については、有料道路を前提とする。

## II. 分野独自の改善

道路	・地域内交通の乗用車分担率について、旅客地域流動調査等における乗用車分担率の実績値を将来に適用することとする。 ・平均利用・輸送距離について、平均利用・輸送距離の現況値を将来に適用することとする。
鉄道	・発生交通量(地域別)の説明変数を人口とGRPとし、ACCを除外した。
航空	・地域別発生シェアモデルの説明変数を人口とGRPとし、ACCを除外した